

なみの会



東京理科大学理工学部建築学科地震工学系研究室 OB/OG 会 会報 2018年8月号

長年の宿題を果たして

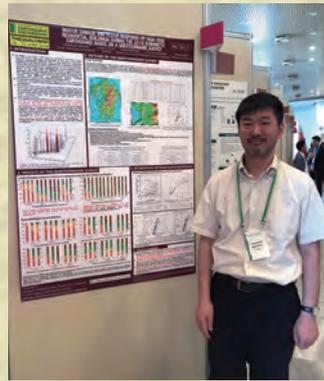
井口道雄



1940 年 生まれ
1964 年 早稲田大学卒業
1966 年 同大学院修士課程修了
1969 年 イタリア留学 (イタリア政府留学生)
1970 年 早稲田大学大学院博士課程退学
1971 年 東京理科大学理工学部専任講師
1974 年 東京理科大学理工学部助教授
1978 年 Univ. of Calif. San Diego 客員研究員
1985 年 東京理科大学理工学部教授
2009 年 東京理科大学名誉教授

大学生活 10 年を過ぎて

永野正行



1964 年 生まれ
1986 年 早稲田大学卒業
1988 年 同大学院修士課程修了
1988 年 鹿島建設入社
2008 年 東京理科大学理工学部教授
現在に至る
2013 年 日本建築学会賞 (論文) 受賞
2017 年 日本学術会議連携会員
2018年6月にギリシャ・テッサロニキで開催されたヨーロッパ地震工学国際会議にて

この五月のことであるが、心に抱えていた長年の宿題にけりをつけた。背負っていた重い荷物を下ろした気分もあって、幾分の安堵感を持ってこの小文を書いている。

退職して以来、年に一二度家内との旅行を楽しんでいる。一度も行ったことがない伊勢参りをしたいという家内のたっの希望を聞き、そのうちにと安請け合いをしたこともあって、いつか果たさなければと思っていたのが宿題の一つであった。五月の連休を外し、あまり暑くならない時期にとあれこれ考え、互いの日程を調整しながら伊勢旅行を実現させたのだが、当日はあいにくの雨であった。私にとっては学生の時以来の参詣だったが、雨の伊勢も悪くないと思いながら、よく手入れされた新緑の木立に覆われた外宮と内宮を巡り、宿題のひとつをやり終えたのである。

伊勢旅行には別の目的があって、それを果たすことがもう一つの宿題であった。三十数年も前であるが、井口研の卒研生であった中村吉則君にゆかりの店が内宮の近くにあるに違いないと勝手に思いこみ、是非そこを訪ねてみたいと思っていたのである。

研究室での中村君は口数も少なく、交わした会話も殆んどなかったのだが、卒業研究打ち上げの折の同君との会話は今でもはっきりと記憶に残っている。雑談の中で、卒業後は建築とは無縁の家業を継ぐという同君の進路を聞き、四年間建築の勉強をしたのだからもったいない、というような配慮を欠く言葉を発してしまった。それに対して、「家業を継ぐことのどこが悪い」、という意味の強い言葉が返ってきて、このやり取りが心に焼き付いていたのである。

昨年の10月29日(日)に開催した『野田建築大同窓会』には「なみの会」の皆さまを含む多数の方々に参加していただきました。当日の様子は後で紹介いたしますが、関東に台風が近づく大変な悪天候にもかかわらず、教職員、OBOG 全体で300人以上の方々に参加していただきました。『野田建築50周年記念事業実行委員会』の委員長を仰せつかり、1年以上の準備期間を掛けてきましたが、これでようやく肩の荷が下りました。これを機に理工建築全体のOBOGの結束が強まっているようです。本年度から、井口研出身の栗飯原さんが野田建築会会長、涌井さんが副会長となっており、このような活動をなみの会メンバーが牽引しております。

さて、今年の4月で、私が本学に着任してから10年経ちました。本当にあっという間の10年間でありました。昨年も書きましたが、着任当初は本当に何が何だか分からないまま走ってきた感じでした。20年間在籍した民間の研究所では上司の指示で行動する形だったのですが、全てを自分で考え指示をする立場になったのです。

楽観的な性格ではあるのですが、当初はそれなりに不安も感じていました。研究指導についてはある程度出来る自信はありましたが、講義については全く経験はありませんでした。担当予定の建築構造力学は建築構造の根幹を成す講義であり、責任重大です。これを如何に系統立てて1年間教えるか、試行錯誤の連続でした。赴任して最初に受け持った建築構造力学2の講義は、全くうまくいきませんでした。当時は180人くらいの受講生がい

卒業して何年か経ってのこと、思いもかけずに中村君から、どっしりとして大きな、それでいておっとりとした牛(丑)の彫り物が送られてきた。素人の私にも一刀彫と分かる見事な作品で、その時はじめて、中村君が彫刻師としての家業を継いだことを知ったのである。それから二三年して、今度は兎(卯)の置物が送られてきた。長い耳と愛らしい目が特徴の、気品ある兎である。牛の彫り物にもあったように、兎の彫り物にも、裏には「良」と読める字が刻まれていた。そして、それから数年して突然、中村君が亡くなったという報を研究室の卒業生から聞き、三十代のこれからという若さでの旅たちにびっくりし、無常観を禁じ得なかったのである。

察するに、民芸品にせよ工芸品にせよモノづくりをしている人にとっては、他人がどんなに素晴らしいと絶賛しても、満足な作品が出来たと自らが思う作家はいないであろう。周囲の人ばかりでなく、中村君自身もこれからと思っていたに違いない気鋭の時期に、不帰の客となってしまったのは心残りであったに違いない。われわれにとっても残念である。

このような訳で、機会を作りいつか中村君の生家なりお店を訪ねたいとの想いを持っていて、それを第二の宿題としていたのである。内宮への参詣を済ませ、雨もほとんど上がった商店街を家内と歩きながら、工芸品を扱っていそうな店を一つ一つ訪ね歩いた。随分とあちこち探し、何軒目であったろうか、彫物が置いてあった「吾木香(われもこう)」という看板の店に入って尋ねたところ、店主が中村君のことをよく知っているということであった。やっと、中村君にたどり着いたのである。

時間を惜しむことなくあれこれ話をして戴き、中村家は伊勢一刀彫の宗家で、「良記」という名を代々継いでいるということなど、沢山の話を伺った。中村君も中村良記という名で一刀彫の家業を継ぎ、工芸師としてこの地で活躍していたのである。若くして亡くなった良記作の彫刻がまだ残っているということで、いくつか見せていただいた。全てが干支にちなんだ動物の置物であったが、裏には見覚えのあるあの「良」の字が刻んであった。残っていた中村君の作品の一つを購入し、大きな仕事を成し遂げたような気持ちで店を後にした。そして、五十鈴川の川辺で中村君の冥福を祈り、伊勢での宿題を全て果たしたのである。(井口)



中村良記作 丑と卯

たのですが(これも驚きでしたが。。。), 出席を取っていないなかったので、実質の出席者が10~20名程度になることもありました。これはまずいということで、後期の構造力学1から、やり方を大きく変えました。授業前の小テストの実施、カラー印刷での講義資料の配布、全資料のHP掲載、期末試験の他に中間試験の実施、小テスト解答のメール配信、考えられることは全てやりました。当時はさらに2回のレポート提出まで課していました。学生にとってはかなりハードだったのではないかと思います。一方、独自に行った授業アンケートでは、勉強したい学生には大変好評であったことが分かりました。講義・演習の経験を積むうちに、学生が間違えやすい点や、理解しにくい点も気づくようになりました。それに応じて講義を改善することもできました。2015年にはテキストである『学びやすい建築構造力学』を発刊しました。講義の予習・復習や中間・期末試験の準備に、受講生によく利用されているようです。建築構造力学の内容は結構難しいと思うのですが、初学者である学生が力の流れを理解するという点では、それなりに貢献できたのではないかと思います。大学院一般入試の選択科目で、計画系も含め建築構造力学をする学生が最も多いこともこの証左ではないかと思います。

研究室では、2017年度までに91名の卒業生、21名の修士生、1名の社会人博士を送り出しています。研究成果も順調に挙げてきております。学生には積極的に査読論文を書くように指導してきており、対外発表も順調に進んでおります。学内外で学生が受賞する機会も多くなってきております。昨年1月にチリで開催された世界地震工学会議、今年6月にギリシャで開催されたヨーロッパ地震工学会議では、学生たちと一緒に発表することができました。本年度は王欣さんが助教として赴任され、さらに国際性豊かな環境になりました。7月末に実施された横断コースの中間発表では、M1,M2全員が研究の英語スピーチを行いました。皆さんとても頑張っていたと思います。

最後になりましたが、この10年間を支えてくれた井口先生を始め、助教の皆様、なみの会OB/OGの皆様、共同研究の皆様、卒業生、学生諸君に御礼申し上げます。定年までまだ10年以上ありますが、自身の研鑽も含め研究室を引っ張り、なみの会をさらに盛り上げていきたいと思えます。(永野)



熊本県・出ノ口断層の調査, 学生とともに

2017年10月29日(日)『野田建築大同窓会』 (理工学部建築学科50周年イベント)開催報告

2017年10月29日に東京理科大学理工学部建築学科50周年イベントである『野田建築大同窓会』を開催いたしました。2017年度の『なみの会』はこのイベントと共催の形にいたしました。この企画の実行委員長は永野先生であり、助教の鈴木さんがそのサポートに回り、なみの会に関係する涌井、粟飯原氏・他が実行委員の幹部を務めました。また永野研のメンバーはほぼ全員参加し、当日イベントのサポートをしていました。

大同窓会当日は、建築家・三分一博志氏による特別講演、記念デザインコンペ作品展・表彰式、野田建築会・OB/OGによる企業パネル展示、建築学科の今までの設計優秀賞のパネル公開、利根運河シアターナイト展、学生模型展示、研究室紹介、歴代卒業写真展、ラストの懇親会と盛り沢山の企画が行われました。

当日は台風が関東を直撃するという残念な天候でしたが、それにも関わらず懇親会には約320名の方々に参加していただきました。井口道雄先生をはじめとした旧教職員の多くと、永野正行先生をはじめとした現在の教職員全員も参加されました。井口研OBは13名の参加者があり、OB教員の研究室としては、奥田研に次ぐ人数でした。

懇親会は実行委員長である永野先生の挨拶を皮切りに開始され、理工学部創設50周年記念デザインコンペ表彰式、懐かしい先生方・同期との懇談、各研究室ごとの記念撮影、最後に全体撮影が行われ、感慨深い一日は幕を閉じることとなりました。(1985卒・涌井)



実行委員長・永野正行教授の挨拶



過去の建築学科・卒業アルバムを一挙公開



井口研集合写真



永野研集合写真



最後に全員で記念写真

大同窓会懇親会にご参加いただいた井口研OBからのメッセージ(敬称略)



古河 司 1978 卒

昨年は、50周年記念事業の準備・運営を担われ、お疲れ様です。懇親会会場には、同期の姿が見えませんでした。掲示されていた卒業写真を久しぶりに観て、若かった当時のことを思い出しました。ありがとうございます。



市原 嗣久 1979 卒

会場では、若い世代の卒業生の熱気でいっぱい新しい時代に向かっていく風を感じました。また、集まった同期は少ないものみんな元気にやっている事を聴いて、まだ61才頑張らなくてはとの思いを強く持ちました。



池本 雅英 1986 卒

卒業後九年は建築関係の仕事について以降、現職になり全く建築から離れてしまっている私にとって、久しぶりの大学は建築の面白さを想い起こさせるいい機会となりました。また皆さんと会えることを楽しみにしています。



平木 隆文 1996 卒

野田建築50周年大同窓会はいにくの雨でしたが、井口先生や井口研の先輩方にお会いできて非常に有意義でした。おかげさまで、なみの会で紹介させていただいた免震実験・研究が実を結び、学位を取得しましたと井口先生に報告できました。

2018年度永野研究室メンバー

本年度は当研究室に11名の卒研生が配属されました。社会人D2が1名、M1、M2がそれぞれ8名で、28名の大所帯となっております。

3月に森林総研に異動した鈴木賢人さんに代わって、2018年4月より前・東北大学の王欣さんが助教として赴任しました。外部の研究者や社会人D2の飛田さんの指導もいただきながら、卒論、修論、大会発表、論文作成を通じ、学生を指導していきたいと考えております。OB/OGの皆様にも各種ご指導いただければと考えております。(M2 田代・佐藤)



新卒研配属時の集合写真(2018.4)



やっと社会人になりました【鈴木先生】

学年	氏名	研究テーマ
社 D2	飛田 喜則	免震
M2	小江 優斗	地震動・建物応答
M2	小川 一真	木造
M2	神戸 寛史	基礎浮き上がり
M2	佐藤 弘樹	地震動
M2	田代 信雄	地震動
M2	日野浦 雄高	超高層 RC
M2	山下 圭吾	地震荷重評価
M2	渡辺 真伍	超高層 RC
M1	片岡 卓也	地震動・長周期
M1	貴堂 峻至	地震動・理論
M1	菅原 和正	木造
M1	田村 彩女	超高層 RC
M1	岡部 俊	超高層波動
M1	西浦 遼	免震
M1	羽津本 晃一	免震
M1	村田 将一	超高層 RC
B4	朝比奈 諒	超高層 RC
B4	唐津 啓樹	地震動
B4	小口 智弘	地震動
B4	渡邊 哲志	超高層 RC
B4	密田 岳秀	超高層 RC
B4	鈴木 和成	地震動
B4	徳永 大地	超高層 RC
B4	関根 英嗣	免震
B4	高平 友博	免震
B4	亀卦川 智哉	免震
B4	孫 芸軒	超高層 RC

新助教の自己紹介

初めまして、王欣です。中国の東北地方に位置する朝鮮民族自治区出身です。私の地元では身分証やお店の看板などを中国語と韓国語の両方で表記するのですが、初めての人にはかなり新鮮に見えるそうです。私も新しい視点から学生の様々な優れた面を見出し、学生が自信を持って社会に旅立つことができるように指導できればと考えます。今後この研究室の教員として、研究と学生教育に尽力する所存でございます。皆様のご指導と鞭撻をよろしくお願いたします。(王)



王 欣 (おう きん / Xin Wang)
 2004年 大連交通大学建築学科
 2007年 東南大学 修士課程修了
 2011年 愛知工業大学博士課程修了
 2012年 東北大学災害科学国際研究所助教
 2018年 永野研究室助教(現職)

永野研究室 2017 年度ゼミ合宿 in 広島・岡山・香川

2017 年度のゼミ合宿は、8 月 31 日から 9 月 5 日の 6 日間にかけて、広島・岡山・香川で行われました。初めの 4 日間は、広島工業大学で開催された日本建築学会大会を聴講しました。企業の方々も参加されている中、堂々と自分の研究について発表し、難しい質問に対して的確に応答している先輩方の様子はとても参考になりました。来年、自分たちが発表する姿をイメージすることができて、貴重な経験となりました。

大会後は岡山で宿泊し、4 日の朝からフェリーで香川の豊島へ移動しました。自転車をレンタルし、サイクリングを楽しみながら豊島美術館に向かいました。瀬戸内海を眺めながらのサイクリングはとても気持ち良かったです。豊島美術館はアーティスト・内藤礼と建築家・西沢立衛の作品で、柱が 1 本もないコンクリート・シェル構造をしており、天井にある 2 箇所の開口部から、周囲の風、音、光を内部に直接取り込んでおり、不思議な空間を感じることができました。その後は岡山の犬島へ移動し、東京理科大卒の建築家三分一博志氏により設計された犬島精練所美術館を鑑賞しました。既存の煙突やカラミ煉瓦、太陽や地熱などの自然エネルギーを利用した環境に負荷を与えない建築は、犬島全体をアートとしていました。最後に直島に移動し、バーベキューを行いました。バーベキュー前に海ではしゃぎすぎて、びしょ濡れになった人も多数……。その日はパオやトレーラーハウスに宿泊した人もおり、より一層直島の自然とキャンプのような雰囲気を感じることができました。

最終日の 5 日には 4 年生による中間発表が行われました。緊張しながら、4 月からの研究成果を研究室メンバーの前で発表しました。先生方や先輩方からの質疑に対して、的確に回答することができず、たじたとになってしまう場面もありましたが、研究目的や発表の仕方、今後の研究の課題などで多くのアドバイスをいただき、4 年生一同多くのことを学ばせていただき、成長することができたと思います。

ゼミ合宿を通して、学術的な勉強となっただけでなく、研究室メンバーとの仲が深まったと思います。貴重な時間を共有することができました。今年度の建築学会は仙台で開催されます。自分たちの研究発表が後輩たちの良い手本となるように精一杯頑張ります。また、ゼミ合宿も仙台で行われる予定となっています。仙台は「杜の都」と称されるほど、自然豊かな都市であり、伊達政宗など歴史的にも有名です。そして、仙台のグルメと言えばやはり牛タンでしょうか。ぜひ堪能したいと思います。今年度のゼミ合宿が今から楽しみです!!! (M1 菅原)



本場広島のお好み焼きを食す



犬島神社にて



豊島美術館にて



卒業式の記念写真

永野研究室 2017 年度活動 (抜粋)

2017.4.9 新卒研究生配属 / 4.14 研究室歓迎会 / 5.24 JpGU-AGU 発表 (幕張) / 7.26 東北大学災害科学国際研究所訪問 (ワンアジア) / 8.16 NHK 取材 (9.4 放送) / 8.31 日本建築学会大会・広島 / 9.1 地域交流会・広島 / 9.4-5 ゼミ合宿・直島, B4 中間発表 / 9.16-17 日中建築構造技術交流会 (神戸) / 9.18 耐力壁ジャパンカップ・富士 (B4 木造班) / 10.6 京大防災研講演 / 10.14 防災リスク管理コース発表会 (M1, M2) / 10.29 野田建築大同窓会 / 10.31 返子免震建物微動計測 / 11.10 大林組技術研究所見学 / 11.13-14 日本地震工学会・東京 (M1, M2) / 11.24 地盤震動シンポジウム / 12.18 研究室忘年会 / 2018.1.6-7 熊本地震・断層調査, 益城町役場・地盤調査 / 2.5 卒論提出 / 2.7 修論提出 / 2.8 震災対策技術展・セミナー・横浜 / 2.14 卒論審査会 / 2.15 修論審査会 / 2.28 東海大学阿蘇キャンパス視察 / 3.14 木造班研究報告会 / 3.16 建築研究所講義 / 3.19 卒業式・研究室打ち上げ / 3.22 UR 研究会報告会

2017 年度学生表彰 (M2 佐藤・M2 田代)



貴堂峻至 卒業論文最優秀賞 受賞
高橋和久 卒業論文優秀賞 受賞

卒業論文は「2016年熊本地震本震時における地表断層近傍記録の再現と地震動の空間変動及び浅部すべり破壊の影響」という題目で行いました。このような評価は私にとっては身に余るものであり、すべてご指導いただいた永野先生のおかげです。今回の受賞を励みに今後の修士での研究活動に精力的に励んできたいと思っております。(M1 貴堂)

卒業研究は「2次構造物の地震時応答評価に用いるCQC係数に関する研究」という研究題目で行いました。このように評価されたことを嬉しく思うとともに、石原先生をはじめとして、永野先生、鈴木先生には私の勉強不足で多くのご迷惑をおかけしたにも関わらず、常に丁寧なご指導をいただきました。この場をお借りして深謝と致します。(元B4 高橋)

**日野浦雄高 日本建築学会
2017年度優秀卒業論文賞 受賞**

大学の卒業論文でまとめた内容をベースとして投稿し、日本建築学会の優秀卒業論文賞をいただきました。本研究は、永野先生・鈴木先生をはじめとし、多くの方々のご協力に支えられ、受賞することができました。今後とも皆様にご指導をいただき、研究に尽力したいと思います。(M2 日野浦)



左：貴堂君、右：高橋君



日野浦君

**神戸寛史 2017年度防災リスク管理
コース発表会・優秀発表賞 受賞**

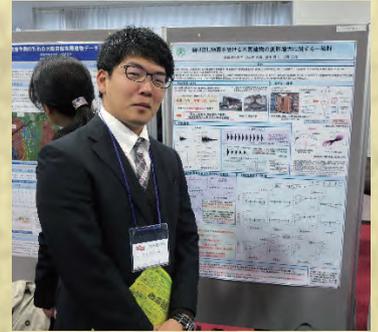
大学院横断コースである防災リスク管理コースの発表会で、英語でのプレゼンテーションに対し3名の優秀発表賞が与えられ、M2 神戸君がその一人に選ばれました。



コース長の大宮先生と神戸君

田中亮磨 修士研究優秀賞 受賞
田中亮磨 2017年度日本地震工学会・優秀発表賞 受賞

永野先生、鈴木さんのご指導と、実験に協力していただいた方々のおかげで学部生時代を含めた3年間、充実した研究室生活を行うことができました。この場をお借りして心より感謝の意を表させていただきます。(元M2 田中)



田中君

**2017年度日本建築学会大会
・若手最優秀発表賞 受賞**

佐藤航平 シェル・空間構造部門
田代信雄 構造部門振動分野
田中亮磨 木質構造部門
小川一真 木質構造部門

2017年度建築学会全国大会での発表に対し、30歳以下の研究者の優秀な発表に与えられた賞です。永野研究室から4名の受賞がありました。発表タイトルは以下の通りです。佐藤航平(元M2)「共振応答倍率に対する履歴特性及び主要動継続時間の影響」、田代信雄(M2)「動力学的震源モデルに基づく鉛直横ずれ断層の連動破壊と応力変化に関する考察」、小川一真(M2)「動的載荷された木質面材大壁の面内せん断性能と動的効果の評価 その1 鉛直構面の面内せん断実験」、田中亮磨(M2)「動的載荷された木質面材大壁の面内せん断性能と動的効果の評価 その2 接合部曲げ実験と釘接合部せん断実験」



左から、小川君、田代君、佐藤君、田中君

2017年度永野研究室 発表論文等成果

【超高層集合住宅関連・査読論文】

成島慶, 永野正行, 鈴木賢人, 上林宏敏, 田沼毅彦, 小田聡: 国内に建つ超高層集合住宅の大地震時における最大平均層間変形角の推定と簡易評価, 日本地震工学学会論文集, 17巻, 5号, pp.5_96-5_108, 2017.11

成島慶, 永野正行, 田沼毅彦, 肥田剛典, 上林宏敏, 金子知宣, 鹿嶋俊英, 森清宣貴, 保井美敏, 小田聡: 強震記録と微動に基づく超高層集合住宅の動特性と中間階記録を利用した剛性変化の分析, 日本建築学会技術報告集, Vol.23, No.54, pp.415-420, 2017.6

【地震動関連・査読論文】

佐々木孝乃, 永野正行, 堀妻里香, 野津厚, 川辺秀憲: 2011年東北地方太平洋沖地震の震源モデルを用いた関東平野における長周期地震動評価, 日本建築学会技術報告集, 第24巻, 第56号, pp.75-80, 2018.2

【動的相互作用関連・査読論文】

山内豊英, 北村春幸, 永野正行, 佐藤利昭, 鈴木賢人, 松田頼征, 飛田喜則: 杭頭免震建物の杭基礎に対する応答変位法の適用に関する研究, 日本建築学会構造系論文集, 第83巻, 第743号, pp.69-79, 2018.1

飛田喜則, 永野正行, 北村春幸, 佐藤利昭, 鈴木賢人, 松田頼征, 鈴木賢人: 強震記録に基づく傾斜基盤上に建つ免震建物の振れ応答の分析, 日本建築学会技術報告集, Vol.23, No.54, pp.409-414, 2017.6

【非構造関連・査読論文】

石原直, 佐藤航平, 鈴木賢人, 永野正行: 非線形地震応答における床応答スペクトルの略算法の提案, 日本建築学会技術報告集, Vol.23, No.54, pp.433-436, 2017.6

山下圭吾, 石原直, 神戸寛史, 鈴木賢人, 永野正行: 鋼製下吊り天井における一体化段差部の静的載荷実験と地震時強制変位の推定, 日本建築学会技術報告集, 第23巻, 第55号, pp.827-831, 2017.10

神戸寛史, 石原直, 山下圭吾, 鈴木賢人, 永野正行: グリッドシステム天井の面内せん断実験と地震応答評価, 日本建築学会技術報告集, 第23巻, 第55号, pp.839-843, 2017.10

【免震建物関連・発表】

鯉淵将成, 永野正行, 松田頼征, 北村春幸: 免震建物の擁壁衝突が梁振動に与える影響の評価, 2017年度日本建築学会関東支部研究報告集1, pp.617-620, 2017.3.1-2, 日本大学理工学部1号館, 東京

【地震動関連・発表】

貴堂峻正, 永野正行, 引間和人: 2016年熊本地震本震時の地表断層近傍における強震動の再現と空間変動, 2017年度日本建築学会関東支部研究報告集1, pp.369-372, 2017.3.1-2, 日本大学理工学部1号館, 東京

上林宏敏, 長都夫, 大堀道広, 新井洋, 永野正行: 模擬微動波形を用いたアレイ解析と全波動場における位相速度, 日本地震工学学会・大会-2017梗概集, P4-4, 2017.11.13-14, 東京大学生産技術研究所駒場IIキャンパス, 東京都

田代信雄, 永野正行, 引間和人, 植竹富一: 中間断層を考慮した鉛直横ずれ断層の連動破壊に関する基礎検討, 日本地震工学学会・大会-2017梗概集, P3-1, 2017.11.13-14, 東京大学生産技術研究所駒場IIキャンパス, 東京都

永野正行: 主旨説明, 第45回地盤震動シンポジウム(2017), 2016年熊本地震に学び、将来の強震動予測を考える, pp.1-2, 2017.11.24, 建築会館ホール, 東京

田代信雄, 永野正行, 引間和人, 植竹富一: 動力学的震源モデルに基づく鉛直横ずれ断層の連動破壊と応力変化に関する考察, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21090, 構造II, pp.179-180, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

渡辺哲史, 加藤研一, 大塚康弘, 田所萌似香, 植竹富一, 引間和人, 永野正行: 動力学的断層モデルによる震源近傍の地震動特性その2: 運動学的断層モデルによる分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21092, 構造II, pp.183-184, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

田所萌似香, 加藤研一, 大塚康弘, 渡辺哲史, 植竹富一, 引間和人, 永野正行: 動力学的断層モデルによる震源近傍の地震動特性その1: 横ずれ断層と逆断層の破壊挙動の比較, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21091, 構造II, pp.181-182, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

大堀道広, 上林宏敏, 長都夫, 永野正行, 新井洋, 早川崇, 岸俊博, 関口徹, 元木健太郎, 田所琴世: 微動アレイ解析のベンチマークテスト(その3 FK法による位相速度), 日本建築学会大会学術講演梗概集,

21171, 構造II, pp.341-342, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

長都夫, 大堀道広, 上林宏敏, 永野正行, 新井洋, 萩原由訓, 野畑有秀, 林田拓己, 横井俊明, 岸俊博, 関口徹, 小嶋啓介, 凌毅群, 中川博人, 野口竜也, 鈴木晴彦, 高橋広人, 吉田邦一: 微動アレイ解析のベンチマークテスト(その2) SPAC系手法による位相速度, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21170, 構造II, pp.339-340, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

上林宏敏, 長都夫, 大堀道広, 永野正行, 新井洋: 微動アレイ解析のベンチマークテスト(その1 全波動場における見かけ位相速度), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21169, 構造II, pp.337-338, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

小山哲史, 永野正行: 平面波斜め入射時の地盤に対する2.5次元時刻歴応答解析の定式化と検証, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21157, 構造II, pp.313-314, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

小江優斗, 永野正行: 建物応答から見た地震動の継続時間スペクトルに関する基礎検討, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21125, 構造II, pp.249-250, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

金宰爽, 永野正行: 大阪平野の浅部表層地盤による地震動の2次元増幅効果に関する検討, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21158, 構造II, pp.315-316, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

橋本拓磨, 永野正行, 植竹富一, 引間和人: 運動学的震源モデルを併用した動力学的震源モデルに基づく断層の連動破壊に関する基礎検討, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21089, 構造II, pp.177-178, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

永野正行: 2016年熊本地震本震時の断層近傍における地震動評価と浅部すべり破壊の影響, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21105, 構造II, pp.209-210, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

佐藤弘樹, 永野正行, 鈴木賢人: 2016年熊本地震本震の強震動シミュレーション解析とパルス性地震動の要因分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21144, 構造II, pp.287-288, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

佐々木孝乃, 永野正行: SPGAモデルに基づく茨城県沖で発生する地震による関東平野の長周期地震動評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21160, 構造II, pp.319-320, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

M. Nagano: Numerical Evaluation Precision of Near-Fault Ground Motions, 24th International Conference on Structural Mechanics in Reactor Technology (SMiRT 24) Busan, Korea, August 20-25, 2017, SMiRT 24-Division 4

【非構造関連・発表】

沖佑哉, 石原直, 鈴木賢人, 永野正行, 岩田善裕: 小規模試験体による軽量鉄骨下地間仕切壁の面外曲げ試験, 2017年度日本建築学会関東支部研究報告集1, pp.209-212, 2017.3.1-2, 日本大学理工学部1号館, 東京

神戸寛史, 石原直, 山下圭吾, 鈴木賢人, 永野正行: グリッドシステム天井の地震時面内せん断変形に対する履歴特性の影響, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 20461, 構造I, pp.921-922, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

山下圭吾, 石原直, 神戸寛史, 鈴木賢人, 永野正行: 応答スペクトル法による天井段差部の地震時強制変位の推定, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 20488, 構造I, pp.975-976, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

佐藤航平, 石原直, 鈴木賢人, 永野正行: 共振応答倍率に対する履歴特性及び主要動継続時間の影響, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 20489, 構造I, pp.977-978, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

【木造関連・発表】

田中亮磨, 鈴木賢人, 永野正行: 繰り返し地震を受ける木質建物の変形増大に関する一検討, 日本地震工学学会・大会-2017梗概集, P4-17, 2017.11.13-14, 東京大学生産技術研究所駒場IIキャンパス, 東京都

鈴木賢人, 小川一真, 田中亮磨, 小宮山征義, 真崎雄一, 永野正行: 動的載荷された木質面材大壁の面内せん断性能と動的効果の評価 その3 面内せん断性能と動的載荷における荷重上昇の評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 22136, 構造III, pp.271-272, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

田中亮磨, 鈴木賢人, 小川一真, 小宮山征義, 真崎雄一, 永野正行: 動的載荷された木質面材大壁の面内

せん断性能と動的効果の評価 その2 接合部曲げ実験と釘接合部せん断実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 22135, 構造III, pp.269-270, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

小川一真, 鈴木賢人, 田中亮磨, 小宮山征義, 真崎雄一, 永野正行: 動的載荷された木質面材大壁の面内せん断性能と動的効果の評価 その1 鉛直構面の面内せん断実験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 22134, 構造III, pp.267-268, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

小宮山征義, 佐藤利昭, 鈴木賢人, 御子柴正, 永野正行: 長期間利用した大型振動台の性能検証実験-振動台上にウェットが偏心配置された場合の入力波再現性の検証-, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21282, 構造II, pp.563-564, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

【動的相互作用関連・発表】

川島学, 永野正行, 鹿嶋俊英: 強震観測記録から推定した中層SRC造建築物の上下振動特性, 日本地震工学学会・大会-2017梗概集, P2-21, 2017.11.13-14, 東京大学生産技術研究所駒場IIキャンパス, 東京都

飛田喜則, 永野正行, 北村春幸, 佐藤利昭, 鈴木賢人, 松田頼征, 山内豊英: 地震観測記録に基づく傾斜基盤上に建つ免震建物の地震動特性-小振幅・短周期成分の振れ振動と免震層の剛性評価-, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21530, 構造II, pp.1059-1060, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

山内豊英, 北村春幸, 永野正行, 佐藤利昭, 鈴木賢人, 松田頼征, 飛田喜則: 杭頭免震建物の杭基礎に対する応答変位法の適用について その2 応答変位法の適用方法の提案, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21403, 構造II, pp.805-806, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

中澤敏樹, 山内豊英, 北村春幸, 永野正行, 佐藤利昭, 鈴木賢人, 松田頼征: 杭頭免震建物の杭基礎に対する応答変位法の適用について その1 杭頭免震建物における応答変位法適用上の課題, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21402, 構造II, pp.803-804, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

【超高層集合住宅関連・発表】

永野正行, 成島慶: 日本国内に建つ超高層集合住宅と巨大地震時の被害推定に向けた応答特性把握, 第十二回日中建築構造技術交流会, 2017.9.16-9.17, 神戸大学, 兵庫県

肥田剛典, 八百山太郎, 永野正行, 高田毅士: 今後の解析技術・計算機技術の応用可能性, 2017年度大会構造(鋼構造)PD [鋼構造物の震災後被災度評価・損傷評価技術], 2017.9.3, 広島工業大学, 広島県

日野浦雄高, 永野正行, 鈴木賢人, 北堀隆司, 田沼毅彦, 小田聡: 超高層RC造集合住宅を対象とした多質点汎用モデルの構築と2016年熊本地震による建物応答の推定, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 23333, 構造II, pp.665-666, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

渡辺真伍, 肥田剛典, 鈴木賢人, 永野正行: 超高層集合住宅の居住者に対するアンケート調査結果に基づくニューラルネットワークによる最大床応答の推定, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21531, 構造II, pp.1061-1062, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

西野剛史, 森下真行, 肥田剛典, 小田聡, 田沼毅彦, 鈴木賢人, 永野正行: 超高層集合住宅を対象とした長期微動計測による固有振動数の変化, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21001, 構造II, pp.1-2, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

成島慶, 永野正行, 鈴木賢人, 上林宏敏, 田沼毅彦, 小田聡: 南海トラフを想定した設計用長周期地震動による国内超高層集合住宅の最大平均層間変形角の推定, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21032, 構造II, pp.63-64, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

北堀隆司, 金子知宣, 田沼毅彦, 小田聡, 時本和則, 日野浦雄高, 鈴木賢人, 肥田剛典, 永野正行: 超高層RC造建物データベースを用いた非線形応答解析による建物周期特性の検討(その2 告示波による建物の周期特性評価), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 23345, 構造IV, pp.689-690, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

金子知宣, 北堀隆司, 田沼毅彦, 小田聡, 時本和則, 日野浦雄高, 鈴木賢人, 肥田剛典, 永野正行: 超高層RC造建物データベースを用いた非線形応答解析による建物周期特性の検討(その1 既往波による建物の周期特性評価), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 23344, 構造IV, pp.687-688, 2017.8.31-9.3, 広島工業大学, 広島県

第4回なみの会 (9月22日・土曜日)

研究会・懇親会のお知らせ

第4回なみの会(東京理科大学理工学部建築学科地震工学系研究室-井口・永野研-OB/OG会)を以下の通り開催いたします。例年通り、研究会と懇親会の2部形式とします。研究会では、井口研出身の博士号取得者のうち本間裕介氏と木田英範氏、社会人博士課程の飛田善則氏による研究紹介を予定しています。

【日時】 2018年9月22日(土) 研究会：午後4時00分～午後6時00分
懇親会：午後6時20分～午後8時00分

【場所】 研究会 森戸記念館 第2フォーラム(1F)
東京都新宿区神楽坂4-2-2 飯田橋駅より徒歩8分

【井口研博士号取得者と永野研社会人学生による研究紹介】

講演予定者：本間裕介氏(ジャパンパイル, 1998卒)
木田英範氏(免制震デバイス, 1996卒)
飛田善則氏(浅沼組, 社会人D2)

懇親会 森戸記念館 第1会議室(2F) 研究会会場の2階になります

研究会・懇親会の出欠の返事をメール(なみの会事務局, iguchi-nagano-lab@rs.tus.ac.jp)もしくは同封のハガキにて、9月15日までにお知らせください。懇親会だけでも構いません。これまで参加したことのない方、講演者に年代の近い方も、参加を歓迎いたします。



研究会および懇親会の場所



森戸記念館 第2フォーラム
(東京理科大学 HP より転載)



第1回なみの会 (2014年10月) 集合写真

なみの会事務局 iguchi-nagano-lab@rs.tus.ac.jp
278-8510 千葉県野田市山崎 2641 東京理科大学理工学部建築学科
永野研究室 (担当：永野正行, 涌井栄治, 王欣)

編集担当 永野 正行、M2 佐藤 弘樹、M2 田代 信雄